



9. 機械

業界動向

海外市場動向～底堅いEV・半導体関連需要

2022/4月-2023/2月の海外向け機械受注は、経済活動の回復や円安効果等により欧米需要が好調だった他、EV・半導体関連需要の増加もあって、前年同期比+19%と高水準で推移しました。2023年度もEV・半導体関連を中心に堅調な推移が見込まれますが、世界的な金利上昇を背景とした先行き不透明感の高まりに伴う投資意欲低下が、需要減少に繋がる可能性がある点には注意が必要です。

国内市場動向～一部では需要減あるも自動化ニーズが下支え

国内向け機械受注は、工場・倉庫設備向けを中心とした根強い自動化ニーズを背景に同+4%と前年並みで推移しました。足元では、火力発電所の休廃止に伴う電力会社向けの需要減はあるものの、引続き工場・倉庫設備への自動化投資が下支えする格好で2023年度も前年度並みを維持する見通しです。

今後の見通し

産業用ロボット～中国市場で地場メーカーとの競争が激化

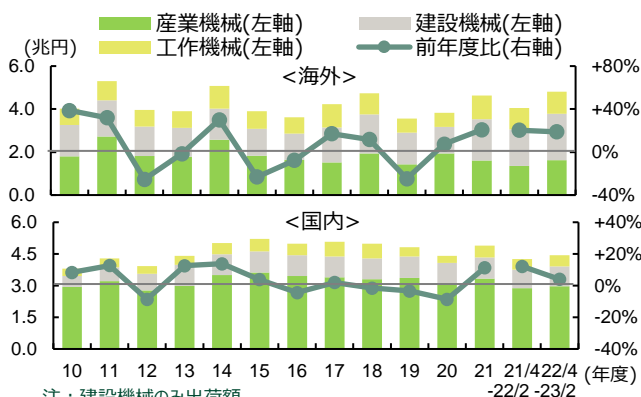
産業用ロボット市場では、需要先産業(自動車、コンシューマー機器等)の発展により成長が著しい中国市場において、地場メーカーが技術力の向上を背景にシェアを高めており、日欧メーカーとの競争が激化しつつあります。こうした現状に対し、日欧メーカー各社はサプライチェーン強靱化などを目的とした部材の現地生産や製品ポートフォリオの拡充に向けた研究開発を活発化させています。

脱炭素化動向～国交省が電動化に関する認定制度を新設

カーボンニュートラル実現を見据え、機械業界でも建機・農機の電動化ニーズが高まっており、機械メーカー各社は電動化製品の開発を進めています。こうした中、国交省は2023年度に建設機械の電動化に関する認定制度を新設し、公共事業の発注に関する優遇措置や補助金等の支援策の検討を発表しました。機械メーカー各社には、この政府支援を通じて研究開発・実用化に向けた取組みを一層加速させていくことが期待されています。

図表1 機械受注額推移(注)

～海外は堅調も国内は前年度並み



注：建設機械のみ出荷額
出所：日本工作機械工業会、日本産業機械工業会、日本建設機械工業会より発行作成

図表2 世界の売上高上位10社(2021年)

～日米メーカーが上位を占める

順位	企業名	売上高 (億円)
1	キャタピラー	56,018
2	ディア	47,165
3	三菱重工業	38,603
4	CNHインダストリアル	36,738
5	小松製作所	28,023
6	カミンズ	26,399
7	クボタ	21,968
8	三一重工	18,197
9	スタンレー・ブラック・アンド・デッカー	17,163
10	川崎重工業	15,009

出所：各社アナリアルレポートより発行作成

図表3 主要ロボットメーカーの取組み

～各社製品開発に注力

年/月	企業	取組み
22/8	安川電機	搬送作業への更なる拡販を目的に従来比高可搬重量(20→30kg)の協働ロボットを上市。
22/11	KUKA (ドイツ)	食品・医薬品産業向けに従来比高速かつ高可搬重量(6kg)のパラレルリンクロボットを発売。
22/12	ABB (スイス)	既存製品対比6倍の速度を実現した新たな協働ロボットを発売。
23/1	KUKA (ドイツ)	EV工場向けに、大型コンポーネントやバッテリーを取り扱うことが可能なロボットを発売。

出所：各社プレスリリースより発行作成